

葛飾区の がん対策のあり方に関する報告書

平成30(2018)年3月

 葛飾区

はじめに

がんは、昭和56（1981）年から、日本人の死亡の原因の第1位であり、生涯のうち、約2人に1人はがんに罹患すると推計されています。

葛飾区においても、がんは昭和51（1976）年から死因の第1位となっており、平成28（2016）年の死亡者数は1,334人と、全死亡者の29.3%を占め、約3人に1人ががんで亡くなっています。

特に働く世代や、子育て世代でのがんによる早すぎる死は、家族や社会の中心を失うことになり、その損失は計り知れず、がんは区民の生命と健康を脅かす重大な脅威となっています。

その一方で、生活習慣の改善や発がんに関係するウイルスなどの感染予防といった対策により、がんにかかるリスクを低下できることが明らかになっており、また、がんを早期に発見して適切に治療すれば、完治することも可能となってきました。

葛飾区では、以前から各種がん検診の実施や、がん教育・普及啓発活動など、がん対策に取り組んでまいりました。しかし、がんの年齢調整死亡率は、全国の平均を上回っており、より一層の施策の充実が必要となっております。

そこで、このような課題に対応するため、平成28（2016）年9月に、学識経験者、医療関係者、地域住民の代表の方等で構成する「葛飾区がん対策あり方検討委員会」を設置し、有識者の方のご意見をいただきながら検討を重ね、「葛飾区のがん対策のあり方に関する報告書」として、この度とりまとめました。

今後区では、本報告書に基づき、かけがえのない区民の生命を守るため、がんやがん予防の普及啓発、たばこ対策、がんの原因となるウイルスなどの感染予防対策、がん検診の受診率向上、がん患者や家族への支援といった施策の充実に取り組んでまいります。

最後になりましたが、この報告書の策定にあたり、熱心に議論を重ねていただきました葛飾区がん対策あり方検討委員会の委員・参考人の方々並びに貴重なご意見をお寄せくださいました関係者の皆様に、心から感謝を申し上げます。

平成30（2018）年3月

葛 飾 区

目次

第1章 がん対策の背景.....	1
<small>りかん</small>	
1. がんの実態—死亡と罹患	2
2. がん対策のあり方について	4
(1) 世界のがん対策について	4
(2) 我が国におけるこれまでのがん対策の取組	5
3. がんの予防の推進（一次予防）	8
(1) たばこ対策	9
(2) 生活習慣の改善	9
(3) 感染症対策	9
(4) がん教育の推進	10
4. 自治体が行き組むべきがん検診の考え方（二次予防）	11
(1) がん検診の基本条件	11
(2) がん検診実施の基本的な考え方	15
(3) 国が定める各がん検診の指針	20
5. がんとの共生～がんになっても安心して暮らせるまちづくり～	24
(1) 緩和ケアの推進	24
(2) がんの相談支援の充実	24
(3) 社会連携に基づくがん対策・がん患者支援	24
第2章 葛飾区のがんに関する現状.....	27
1. 葛飾区のがん死亡率の現状	28
2. 葛飾区のがん対策の現状	30
(1) 葛飾区のこれまでのがん対策	30
(2) 葛飾区のがん検診の受診状況	31
3. 葛飾区のがん検診の課題	33
(1) 有効的（がん死亡率減少に効果的）な検診の実施	33
(2) 質が管理されたがん検診の実施	35
(3) 多くの区民が受診する（受診率が高い）がん検診の実施	37
4. 葛飾区のおそれのがん対策	41
(1) がんの予防の取組	41
(2) がんに関する啓発活動	43

(3) がんとの共生～がんになっても安心して暮らせるまちづくり～	43
第3章 葛飾区におけるがん対策のあり方について	45
1. 葛飾区のがん検診のあり方について	46
(1) 各がん検診の現状と課題	46
(2) がん検診の精度管理について	61
(3) がん検診の受診率向上に向けて	61
2. 葛飾区のおそれ他のがん対策について	63
(1) 一次予防	63
(2) がんとの共生	64
(第3章 資料) がん対策あり方検討委員会における論点のまとめ	65
(1) 胃がん検診	65
(2) 子宮がん検診	66
(3) 肺がん検診	67
(4) 乳がん検診	67
(5) 大腸がん検診	69
(6) 前立腺がん検診	69
(7) その他	70
資料編	71